

研究業績一覧（2012 年 10 月 20 日現在）

[編著書]

1. 野呂香代子 / 山下仁 (編著) 『「正しさ」への問い—批判的社会言語学の試み』三元社 2001 年 (本人の分担は、第 2 章「敬語研究におけるイデオロギー批判」) S. 51-83.
2. 植田晃次 / 山下仁 (編著) 『「共生」の内実—批判的社会言語学からの問いかけ』三元社 2006 年 (本人の分担は、第 7 章「共生の政治と言語」) S. 157-185.
3. 山下仁 / 渡辺学 / 高田博行 (編著) 『言語意識と社会』三元社 2011 年 (本人の分担は、第 6 章「言語の隠蔽機能 - 言語意識と批判的談話分析について - 」) S. 139-166.
4. Claus Ehrhardt/Eva Neuland/Hitoshi Yamashita (Hrsgs.): Sprachliche Höflichkeit zwischen Etikette und kommunikativer Kompetenz (Reihe: Sprache ; Kommunikation ; Kultur, Soziolinguistische Beiträge) (Peter Lang) 2011 年 S. 147-160.

[著書] (単著)

1. "Der Anteil von Deutsch in japanischen Übersetzungsbüros " Ulrich Ammon (Hrsg.) Die deutsche Sprache in Japan - Verwendung und Studium (Iudicium Verlag), S. 83-102. 1994 年
2. 「社会言語学の文体研究」岡野安洋 (編集代表) 『探究 ドイツの文学と言語・立川洋三先生定年退職記念論文集』東洋出版, S. 277-299. 1995 年
3. "Höflichkeitsstile im Deutschen und Japanischen " Heinz-Helmut Lueger (Hrsg.) Höflichkeitsstile (Cross Cultural Communication Sammelband) (Peter Lang), S. 315-334. 2001 年
4. 「メーリングリストのドイツ語 - ドイツ語の新たな表現形式について - 」仙葉豊 / 高岡幸一 / 細谷行輝 (編著) 『言語と文化の饗宴』英宝社, S.319-338. 2006 年
5. 「ポライトネス研究における自明性の破壊にむけて」ましこひでのり (編著) 『ことば / 権力 / 差別』三元社, S. 165-191. 2006 年
6. 「日本語の多様性と共生を生きる日本社会」金崎春幸 / 木村健治 (共編) 『言語文化学への招待』大阪大学出版会, S. 161-174. 2008 年
7. "Höflichkeit, Freundlichkeit und Distanz ; Gedanken ueber die Beziehung zwischen Höflichkeitsforschung und DaF-Unterricht anhand einer empirischen Fragebogenerhebung " Claus Ehrhardt/Eva Neuland (Hrsgs.) Sprachliche Höflichkeit in interkultureller Kommunikation und im DaF-Unterricht, Sprache-Kommunikation ; Kultur, Soziolinguistische Beiträge (Peter Lang), S. 117-130. 2009 年
8. " Japan's literacy myth and its social functions " Patrick Heinrich/Christian Galan (eds.) Language Life in Japan: Transformations and Prospects (Routledge Contemporary Japan) (Routledge), S. 94-108. 2010 年

9. Online-Woerterbuecher in Japan " Lexicographica; International Annual for Lexicography / Revue Internationale de Lexicographie / Internationales Jahrbuch fuer Lexikographie (Walter de Gruyter), S. 195-198. 2010 年

10. "Hoeftichkeitsformen beim Verkaufen" Michael L. Kotin/Elizaveta G. Kotorowa(Hrsgs.): Die Sprache in Aktion" Pragmatik Sprechakte Diskurs (Universitaetsverlag Winter), S. 225-243. 2011 年

11. 「日本の多言語状況に関するいくつかの研究課題」砂野幸稔(編著)『多言語主義再考—多言語状況の比較研究』三元社, S. 710-744. 2012 年

12. Kontrastive Soziolinguistik und Grenzüberschreitung Maeda, Ryoza(Hrsg.) Transkulturalitaet ; Identitaeten in Neuem Licht, S. 857-863. 2012 年

[著書](共著)

1. " Concepts of communicative virtues (CCV) in Japanese and German " Marlis Hellinger/Ulrich Ammon(eds.) Contrastive Sociolinguistics (Mouton de Gruyter), S. 385-409. 1996 年 (丸井一郎 /Rudolf Reinelt/ 西嶋義憲 / 野呂香代子との共著)

2. "Kommunikative Kompetenz - Sprachliche Kompetenz" Ulrich Ammon/ Norbert Dittmar/ Klaus J. Mattheier/Peter Trudgil(Hrsgs.) Sociolinguistics/Soziolinguistik, An International Handbook of the Science of Language and Society/Ein internationales Handbuch zur Wissenschaft von Sprache und Gesellschaft, second edition (Walter de Gruyter), S. 165-171. 2004 年 (Noro Kayoko との共著)

[単著論文]

1. 「コノテーションと社会言語学」『WORT』(立教大学大学院文学研究科ドイツ文学専攻編) 第 9 号 , S. 31-50. 1987 年

2. "Verschiedenheit der Anredeformen" 『ASPEKT』(立教大学ドイツ文学研究室編) 第 20 号 , S. 64-91. 1987 年

3. "Amae und christliche Busse, Ueber die Wirkung des Buches "Ganz unten" in Japan und in der BRD" Flaschenpost (Universitaet Duisburg) Heft 5, S. 3-6. 1989 年

4. "Zur Verwendung der Anredeformen von mittlereren Angestellten - dargestellt am Beispiel von Beschaeftigten in Duisburger Unternehmen" 『WORT』(立教大学大学院文学研究科ドイツ文学専攻編) 第 11 号 , S. 89-103. 1989 年

5. "Klischee im Spiegel, Deutsche Japan-Bilder am Beispiel der Spiegel-Serië Flaschenpost (Universitaet Duisburg) Heft 6, S. 3-5. 1990 年

6. "Vom Sie zum Du? - eine empirische Erhebung zu Funktion und Gebrauch der deutschen Anredeformen " 『エネルギー』(ドイツ文法理論研究会編) 第 18 号 , S. 76-108. 1992 年

7. "Hoererspezifische Hoeflichkeitsformen" Deutsch als Fremdsprache (Langenscheidt) 30 Jg. Heft 3, 3. Quartal, S. 145-151. 1993 年
8. 『現代ドイツ語の言語行動の諸相』文部省科学研究費補助金奨励研究 (A) 研究成果報告書 1996 年
9. "Zu Bewertenden Konzepten kommunikativen Verhaltens - am Beispiel des japanischen Anredeverhaltens " 『言語文化研究』(大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科編) 22 号, S. 273-294. 1996 年
10. 「独作文における冠詞用法の考察 - 初級ドイツ語学習者の作文をもとに - 」『ドイツ語学研究』(冠詞研究会編) 第 6・7 号, S.57-80. 1996 年
11. 『日独言語行動の対照社会言語学的考察』文部省科学研究費補助金基盤研究 (C) 一般 (2) 研究成果報告書 (研究代表者 山下仁) 2000 年
12. 「コミュニケーション能力とドイツ語教育」『言語文化共同研究プロジェクト 2000:「文化」の解説 / ドイツ語教育の諸相』(大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科編), S. 83-96 . 2001 年
13. 「国語審議会答申のイデオロギー」『月刊言語』(大修館書店) 2001 年 11 月号, S. 60-67. 2001 年
14. "Hoeflichkeit im Deutschen—am Beispiel der Verkaufsgespraeche " 『ドイツ文学』(日本独文学会編) 108 号, S. 82-92. 2002 年
15. 「学生参加型外国語授業としての “ Maethode Immidiata ” 」『言語文化共同研究プロジェクト 2001:外国語授業としての “ Maethode Immidiata ” 』(大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科編), S. 59-68. 2002 年
16. "Soziale Relevanz der Hoeflichkeit“ 『ドイツ文学』(日本独文学会編) 111 号, S. 104-118. 2003 年
17. 「批判的社会言語学のための予備的考察」『言語文化共同研究プロジェクト 2002:批判的社会言語学の諸相』(大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科編), S. 1-15. 2003 年
18. 「日系ブラジル人をめぐる国会での答弁」『言語の接触と混交 日系ブラジル人の言語の諸相』(大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文学」編), S. 203-211. 2003 年
19. 「共生と批判的社会言語学の可能性」『言語文化共同研究プロジェクト 2003:批判的社会言語学の可能性』(大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科編), S. 49-60. 2004 年
20. 「社会言語学の壁 - 社会言語学のこれまでと今後」『多言語社会をめざす言語運動・言語政策に関する総合的研究 - ヨーロッパ・アジア・日本の比較を通じて』平成 13 - 15 年度科学研究費補助金、基盤研究 (B)(1) 課題番号 13410056 研究成果報告書 (研究代表者 林正寛), S.22-25. 2004 年

21. 「日本における多言語主義」『言語文化共同研究プロジェクト 2004:批判的社会言語学の射程』(大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科編), S. 1-15. 2005 年
- 22.『言語行動と伝達能力に関する対照社会言語学的考察』文部省科学研究費補助金基盤研究(C)一般(2) 研究成果報告書(研究代表者 山下仁) 2005 年
23. 「ドイツ語教育における言語ゲームと意味形態」『ドイツ語学研究』(冠詞研究会編)第 11 号, S. 5-67. 2005 年
24. 「ドイツ語メーリングリストの特徴 - 呼びかけと結びのことばに関する社会言語学的考察」渡辺学(編)『ニューメディアに映じたドイツ語の最前線』日本独文学会研究叢書 046 号, S. 57-70. 2006 年
25. 「批判的社会言語学の展開について」『言語文化共同研究プロジェクト 2006:批判的社会言語学の展開』(大阪大学大学院言語文化研究科編), S. 1-15. 2007 年
26. 「グローバリゼーションと敬語研究」『ことばと社会』(『ことばと社会』編集委員会編)第 10 号, S. 136-158. 2007 年
27. "Hoeflichkeitsformen als Gegenstand der japanischen Sprachpolitik ; analysiert in den neuen Medien; Parlamentsprotokollen, Online-Zeitungen, Blogs und Foren “ 『ドイツ文学』(日本独文学会編) 136 号, S. 65-84. 2008 年
28. "Hoeflichkeitsform als Gegenstand der japanischen Sprachpolitik “ 『言語文化共同研究プロジェクト 2007:批判的社会言語学の課題』(大阪大学大学院言語文化研究科編), S. 27-41. 2008 年
29. "Literacy Mythos in Japan “ 『言語文化共同研究プロジェクト 2008:批判的社会言語学の実践』(大阪大学大学院言語文化研究科編), S. 45-57. 2009 年
30. 「日本の読み書き能力の神話」『社会言語学』(「社会言語学」刊行会編), S. 195-211. 2009 年
31. 「呼称表現の研究からポライトネスの対照社会言語学的研究へ」『言語文化共同研究プロジェクト 2009:批判的社会言語学の展開』(大阪大学大学院言語文化研究科編), S. 29-41. 2010 年論文 31
32. 「コミュニケーション行動における敬意表現の日独比較」山下仁 / 白井宏美(編著)『話しことば研究の射程』日本独文学会研究叢書 068 号, S. 63-74. 2010 年
33. 「日本における言語使用の多様性と日本語の多言語化について」『言語文化共同研究プロジェクト 2010:批判的社会言語学の領域』(大阪大学大学院言語文化研究科編), S. 3-14. 2011 年
34. 「批判的ディスコース分析」『日本語学』臨時増刊号(明治書院), S. 152-161. 2011 年
35. 「ドイツにおけるポライトネス研究について」『言語文化共同研究プロジェクト 2011:批判的

社会言語学の領域』(大阪大学大学院言語文化研究科編), S. 55-67. 2012 年

[共著論文] 1. “Modelling summary writing by introspection: A small-scale demonstrative study” TEXT an interdisciplinary journal for the study of discourse (Mouton de Gruyter) 11-4, S. 523-552. 1991 年 (Brigitte Endres-Niggemeyer/Wim Waumans との共著)

2. 「外国籍住民が抱えている生活問題について - 大阪府下の地方自治体に対するアンケート調査および外国籍住民に対するインタビュー調査をもとにした考察」津田葵 / 真田信治 責任編集『言語の接触と混交 - 共生を生きる日本社会』(大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文科学」報告書, 大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文科学」編集・発行), S. 87-115. 2005 年 (羅曉勤との共著)

3. 「大阪における多言語表示の実態: まちかど多言語表示調査、外国人へのアンケート調査、行政・鉄道へのインタビュー調査から」津田葵 / 真田信治 (責任編集)『言語の接触と混交 - 共生を拓く日本社会』(大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文科学」報告書, 大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文科学」編集・発行), S. 105-146. 2006 年 (佐藤誠子 / 布尾勝一郎との共著)

4. 「「移民国」ドイツの内実について」『多言語社会生成の歴史的条件に関する総合的研究』平成 16 - 19 年度科学研究費補助金、基盤研究 (B)(1) 課題番号 16320082 研究成果報告書 (研究代表者 原聖), S.69-75. 2007 年 (野呂香代子との共著)

[口頭発表] 1. 「ドイツ語の呼称表現に関する社会言語学的考察 - duzen と siezen の実態調査にもとづいて」(第 48 回ドイツ文法理論研究会、日本大学、1991 年 5 月 19 日)

2. "Hoererspezifische Hoeflichkeitsformen im Deutschen"(23. Jahrestagung der Gesellschaft fuer Angewandte Linguistik e.V., Saarbruecken, 1992 年 10 月 1 日)

3. "Tragweite der Konzepte der kommunikativen Tugend am Beispiel des japanischen Anredeverhaltens"(第 14 回夏期言語学ゼミナール、大阪、1994 年 9 月 3 日)

4. 「ドイツ語における依頼表現と謝罪表現 - ひとつの社会言語学的考察 - 」(阪神ドイツ文学会 第 153 回研究発表会、大阪大学、1995 年 4 月 2 日)

5. "Wertdimension pragmatischer Varianten der deutschen Sprache" (27. Jahrestagung der Gesellschaft fuer Angewandte Linguistik e.V., Erfurt, 1996 年 9 月 27 日)

6. "Hoeflichkeit im Japanischen und Deutschen" (Linguistisches Kolloquium der Universitaet Essen, Wintersemester 1996-97, 1996 年 12 月 17 日)

7. 「ドイツの標準変種に見られる変異」(日本独文学会 1997 年秋季研究発表会シンポジウム、沖縄国際大学、1997 年 12 月 6 日)

8. 「ドイツの社会言語学」(大阪大学・コペンハーゲン大学学術交流プログラム記念シンポジウム 第七シンポジウム、大阪大学、1998 年 7 月 12 日)

9. "Kulturspezifische Kommunikation im Deutschen und Japanischen" (30. Jahrestagung der Gesellschaft fuer Angewandte Linguistik e.V., Frankfurt a. M., 1999 年 10 月 1 日)
10. 「標準変種の一要素としての正書法」(阪神ドイツ文学会第 175 回研究発表会シンポジウム:「思想」としての正書法改革、大阪府立大学、2001 年 1 月 28 日)
11. 「ポライトネスとコミュニケーション能力」(社会言語科学会ワークショップ:ヨーロッパから見たポライトネス、東北大学、2002 年 9 月 22 日)
12. "Hoeftlichkeit als Teil der kommunikativen Kompetenz (1. Internationale Kongress Niigata, 2002 年 9 月 28 日)
13. "Die Stellung der deutschen Sprache in Japan" (Workshop im Rahmen des COE-Programms der Universitaet Osaka, Geisteswissenschaften im Zeitalter der Globalisierung, 大阪大学, 2003 年 2 月 18 日)
14. 「社会言語学の壁」(多言語社会研究会大会、中京大学、2003 年 12 月 6 日) 15. 「日本とドイツのポライトネス研究」(「社会と行為から見たドイツ語」研究会、学習院大学、2004 年 12 月 18 日)
16. 「メーリングリストのドイツ語—ドイツにおける新たな表現形式について—」(日本独文学会秋季研究発表会シンポジウム V「ニューメディアに映じたドイツ語の最前線」、同志社大学、2005 年 10 月 9 日)
17. 「口頭での書評『ヨーロッパ』(世界の先住民 6) 明石書店」(第 32 回多言語社会研究会(東京例会)、東京外国語大学サテライト、2005 年 12 月 3 日)
18. "Die Rolle der Hoeftlichkeitsformen bei der Standardisierung der japanischen Sprache" (37. Jahrestagung der Gesellschaft fuer Angewandte Linguistik, Westfaelische Wilhelms-Universitaet Muenster, 2006 年 9 月 22 日)
19. "Die Rolle der Hoeftlichkeitsformen nach dem Zweiten Weltkrieg bis zur Gegenwart in Japan" (3. Deutsche Sprachwissenschaft in Italien, ローマ大学, 2008 年 3 月 15 日)
20. "Kontrastive Soziolinguistik und Grenzüberschreitung" (Asiatische Germanistentagung 2008, 金沢星稜大学, 2008 年 8 月 29 日)
21. 「社会言語学のいくつかのテーマとそれらに関する共同研究の可能性について」(「社会と行為から見たドイツ語」研究会、学習院大学、2009 年 3 月 18 日)
22. 「コミュニケーション行動における敬意表現の日独比較」(日本独文学会 2009 年春季研究発表会シンポジウム 「話しことば研究の射程」、明治大学、2009 年 5 月 30 日)
23. 「ドイツ語研究の魅力を語る」(学習院大学大学院ドイツ語ドイツ文学専攻主催連続講演会、学習院大学、2010 年 2 月 21 日)

24. 「日本語とドイツ語のポライトネスについて」(日独対照ポライトネス研究会(渡辺学) 大阪大学、2010 年 3 月 3 日)

25. "Sprachliche Höflichkeitsformen beim Verkaufsgespräch: eine kontrastive soziolinguistische Untersuchung Deutsch und Japanisch" (IVG 2010, Sektion 42. ワルシャワ大学, 2010 年 8 月 5 日)

26. 「多言語化現象に関する社会言語学的研究のいくつかの方法について」(多言語化現象研究会、民族学博物館、2010 年 10 月 23 日)

27. 「日本の多言語状況に関するいくつかの研究課題」(「多言語状況の比較研究」研究会、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2010 年 11 月 20 日)

28. "Höflichkeitsformen beim Verkaufen" (Internationale sprachwissenschaftliche Fachtagung an der Universitaet in Zielona Goera, ジェロナ・グラ大学(ポーランド), 2011 年 5 月 14 日)

29. 「鼎談:「言語意識と社会」の現在」(「社会と行為から見たドイツ語」第 18 回研究会、学習院大学、2011 年 10 月 1 日、渡辺学・高田博行との鼎談)

30. 「ドイツ語によるポライトネス研究」ポライトネスの独日英語対照比較—社会心理学を参照して—」研究会、学習院大学、2011 年 10 月 2 日)

31. 「『冠詞』再考に向けて:『冠詞』ダイジェスト版について」(日本独文学会春季研究発表会シンポジウム 「関口文法の射程—主著『冠詞』のダイジェスト版をてがかりにして」, 上智大学、2012 年 5 月 19 日)

[書評・新刊紹介] 1. "Helmut Glueck, Wolfgang Werner Sauer(1990): Gegenwartsdeutsch", Das Argument 189, S. 794f. 1991 年

2. "Florian Coulmas(1992): Die Wirtschaft mit der Sprache. Eine sprachsoziologische Studie", 『ドイツ文学』第 92 号, S. 185. 1994 年

3. "Maria Sifianou(1992): Politeness in England and Greece: A Cross-Cultural Perspective", sociolinguistica 8, S. 147f. 1994 年

4. "Ulrich Ammon(1995): Die deutsche Sprache in Deutschland, Oesterreich und der Schweiz. Das Problem der nationalen Varietaeten", 『ドイツ文学』第 97 号, S.141-143. 1997 年

5. "Werner Besch(1996): Duzen, Siezen, Titulieren: Zur Anrede im Deutschen heute und gestern", sociolinguistica 11, S. 218ff. 1997 年

6. 「有田潤著『ドイツ語学講座 1～6』1985-1997」 『ドイツ文学論攷』第 39 号, S.117-122. 1997 年

7. 「第 30 回応用言語学学会」 『ドイツ文学論攷』第 41 号, S.165-168. 1999 年

8. "Ulrich Ammon/Chong Si-Ho (Hg.) (2003): Die deutsche Sprache in Korea, Geschichte und Gegenwart", 『ドイツ語教育』第9号, S. 65-67. 2004 年

9. 「山内薫著『人と本をつなぐ図書館員』」『社会言語学』, S. 211-214. 2010 年

■ [研究ノート]

1. "Eine Operation 'Ganz Unten'" 『WORT』(立教大学大学院文学研究科ドイツ文学専攻編)第8号, S. 1-10. 1986 年 (Chikako Aizawa との共著)

2. 「ドイツ語の「敬意表現」に関する質問紙調査」『情報科学研究』(獨協大学情報センター)第9号, S. 123-134. 1991 年 (板山真由美、下川浩との共著)

3. 「社会言語学の最新の研究プロジェクト」『ドイツ語教育部会会報』第40号, S. 1-7. Herbst 1991 年

4. 「津田葵先生との COE 研究プロジェクト」高木佐知子編集代表『言語と文化の展望』, S.691-704. 2007 年

5. 「まえがき」『多言語社会研究会 年報6号』, S.3-8. 2011 年

■ [部分執筆・編集協力]

1. 『ドイツ言語学辞典』紀伊國屋書店 1994 年

2. 『パスポート独和辞典』白水社 (細谷行輝/菅谷泰行/市岡正適/山取清/我田広之共編) 1999 年

3. 『ことばと社会』第12号『ことばと社会』編集委員会 三元社 2010 年

■ [翻訳]

1. 『言語とその地位』(ウルリヒ・アモン著、桧枝陽一郎との共訳) 三元社、1992 年

2. 「談話に見られる人種差別の否認」テウン・ヴァン・デイク著(野呂香代子との共訳)植田晃次・山下仁編著『「共生」の内実—批判的社会言語学からの問いかけ』、三元社 S.187-249. 2006 年

3. 『批判的談話分析入門』(ルート・ヴォダック&ミヒャエル・マイヤー編、野呂香代子監訳)三元社(第一章(ルート・ヴォダック)および第三章(ジークフリート・イエーガー)の翻訳を担当), S.9-25, S.51-91. 2011 年